

千代田界隈のレトロな風景



交差点

向こう側から見ると「速度おとせ」
(千代田6丁目)

みどりの風



2022.3.1

-NO.282-

発行 社会福祉法人 悠朋会

相模原市中央区千代田2-4-1

千代田デイサービスセンター

042-751-0672

ヘルパーステーション千代田

042-704-0261

千代田介護支援センター

042-704-0281

児童クラブ いちばん星

080-5865-1586

ホームページアドレス

www.yuhokai-kaigo.com

人・ひと日記

小林 功

二月初旬でのコロナ感染状況は全国で約十万人。東京は二万人、神奈川は一万人、相模原市は千人。私たちの周りでも感染者発生、情報のじわりじわりと忍び寄ってくる気配を感じます。第五波の時の十倍の感染数です。この段階で千代田デイサービスセンターでも利用者と職員に陽性者の発生がありました。熱発者も散見され、今後の予測がつかないため一旦、現状をリセットするため今日(2/15)から一週間の事業休止を決定しました。利用者の方にはご迷惑をおかけしますが目に見えないものから身を守るための緊急回避です。ご無事でお過ごしください。

先月号でアベノマスクを注文した話をしましたがまだ送られてきていません。厚労省によると約八千枚の在庫に対し、保管する費用は年間六億円。廃棄するにしても六千万円かかる。そこで無料配布を募集したところ三十七万件、二億八千万枚以上の申し込みがあり、これにかかる配送料が十億円にのぼるといふ。いづれにしても大きな費用がかかるのです。そもそもこのマスクは時の政権がコロナ対策として二百六十億円をかけて全世界に二枚ずつ配布したものです。市場ではマスク不足はすぐ解消され評判の悪いマスクは行き場を失ってしまいました。今回無料配布に対して多量の希望があったことで当の元首相は自分の政策が評価されたようなことをコメントしていましたがそれはとんでもない勘違いというもので「もったいないから」だと思います。同時におバカな御人のおバカな所業の後始末をしてあげようかというものだと思います。

朝ドラのストーリー展開の速さが心地よい。最後はどうなるのでしょうか？私が描くハッピーエンドは「アメリカで安子とるいが再会し、ジョーがミュージシャンとしてカムバックする」・・・単純すぎですか？

☆節分☆

2月3日は節分のイベントを楽しみました♪
当日参加された年神様のご加護を受けた
年男、年女の利用者さまによる豆まきを行
い、邪気払いをしていただきました☆



その後は利用者全員による豆まきも行い、見事、赤鬼青鬼退治をして
いただきました♪

豆まき 福 豆まき 福 豆まき 福 豆まき 福

卒園おめでとう♪

星が丘にある二葉園さんとはいつも『交流
会』というかたちで、園児たちとゲームをし
たり、演劇を楽しませてもらっていました。

この2年間なかなか会えていませんが、敬老
会では可愛いメッセージをいただいたり、卒
園の時は手作りの小物を贈らせてもらったり
と、モノとココロの交流は続いています。

今年も可愛いキャラクターのペン
立て小物入れを利用者さんで作り、
卒園生に贈りました。

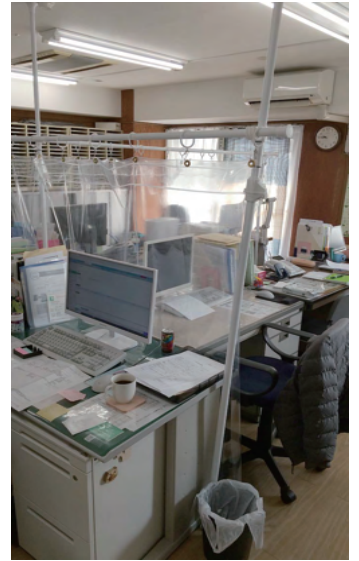
小学校に行ってもたくさん学んで
楽しんでください☆



今回はケアマネジャーの日常をご紹介します。千代田介護支援センターは快適な職場環境で、かつ完璧なるディスプレイと換気をしています。



メイプルビル401号室が事務所です。エレベーターのすぐ横に玄関があります。



電動自転車、普通自転車2台、乗用車2台で移動しています。

ビニールシートで仕切り常に換気しています。加湿器、サーキュレーターも稼働しています。



ウォーターサーバー、冷蔵庫、レンジ、コーヒーメーカー、IHコンロがあります。非常食でカップ麺を常備しています。



応接間です。各施設のパンフレットやカタログ等も配置しています。来訪された方との面談はここでしています。



テラスです。暑くも寒くもない日は、ここで昼のラジオ体操をしています。スクワット30回も続けています。



日当たりの良い窓際でガーデニングをしています。

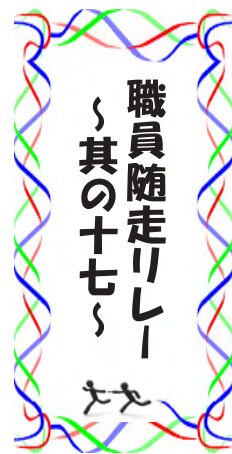


書道
体重測定
誕生会



10日(木)、25日(金)
7日(月)~13日(日)
25日(金)~31日(木)





帰省



ケアマネジャー
伊藤 秀男

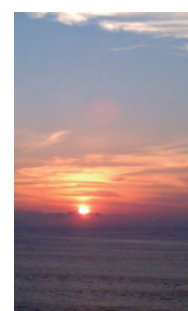
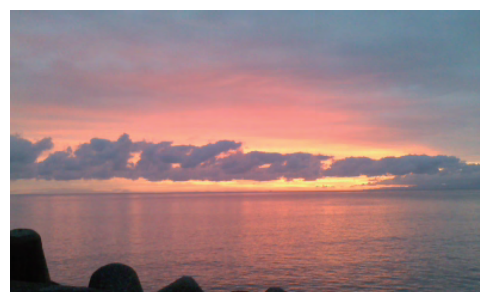
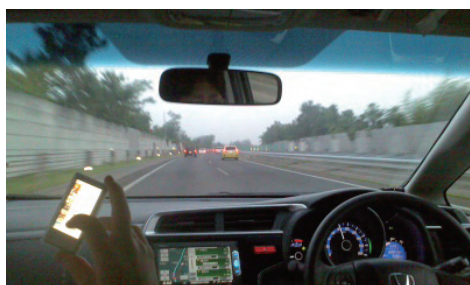
相模原市から北へ810km、本州の日本海側最北端に故郷がある。竜飛崎より津軽海峡の対岸には北海道松前町を望む。緑豊かな津軽半島は、自然の恵みが豊富な海に包まれた限界集落並みの小さな田舎町。青森といえば、何ととっても日本三大祭りの「青森ねぶた祭」。大型ねぶたのド迫力に圧倒され、ねぶた囃子と跳人には誰もが酔いしれる。



毎年8月11日、妻と愛犬ふうちゃん
の3人で日付が変わる頃に相模原を発ち、
朝方には宮城県に入り、長距離の岩手県
を走行中、左に岩手山がそびえる。昼前
には東北道を下り津軽半島を65km北
上すると潮風吹く故郷によく辿り着
く。

年々、小さくなっていく病弱な母の姿を
見て「けねでばな(津軽弁で『問題ないよ』
の意)」と裏腹な一言。休む間もなく仏壇
やお墓の掃除等ご先祖様を迎える支度に掛
かる。夜には母の好きな酒を飲み交わし、一
年分の母の話を子守唄に爆睡。

13日、隣町にある妻の実家に顔を出し、
夕方、46歳で亡くなった父が眠る義経寺
に墓参り。寺の和尚は同級生で、お墓のこ
と等しくゆくのことも相談に乗ってくれる。
母は週2回デイサービスに通い、住宅改
修し手摺レンタルも利用。週1回のヘルパ
ーさんは母が毒舌の為、来られる人がいな
い始末である(笑)。日頃何かあった時に
は担当のケアマネに連絡し、「いつもご迷
惑をおかけしています」と挨拶するが、ケ
アマネは否定はしない。帰省中、風物詩の
一つである夏の甲子園が母も好きで、いつ
もテレビは甲子園。



15日、竜飛岬、西側の地平線に夕
日が沈む頃、オレンジ色に染まる岬を
背景に帰路につく。母を一人残し故郷
をあとにする時は、後ろ髪を引かれる
思いにかられるが、母は地元の津軽と
亡き夫と過ごした家が好きである。

コロナ感染の終息がみえない。今年
の夏は故郷の母に会えるだろうか。

編集後記

膝を痛めてから2年ほど経ちました。たっくんの
施術と厳しい指導によりだいぶ良くなりました。最
近はランニングも再開しています。暴飲暴食も可能
な範囲で抑えています。でも、体重が。若くはない
さと言いつつながらラーメン食べております。H